

すいた環境サポーター養成講座 第 12 回目

日時：1/14(月・祝)10：30～16：00

場所：千里山コミュニティセンター多目的ホール

◆ワークショップ運営実務 2

担当：(特活) インクルージョンプログラムラボラトリ 事務局長 岩屋 さおり 氏

前回(11/18)の講義をふまえて、今回は「ふりかえり」と「わかちあい」を、実践で役立てる具体的な方法について学びました。体験学習の循環過程である①体験→②指摘→③分析→④仮説→⑤試行の、②～④がふりかえりにあたり、個人でのふりかえりをグループで、グループでのふりかえりを全体で分かち合うことによって、気づきを豊かなものにしていく必要性が説明されました。



一般市民を対象とした公開ワークショップでは、受講者が学習したスキルの指導を実践します。この講義中に、午後から実際に行うワークショップの指導者役、参加者役を体験するロールプレイを行い、ふりかえりを実施しました。そこで得られた気づきを、ワークショップの実践に役立てることになりました。



お昼の休憩をはさんで、受講者全員とスタッフとで、公開ワークショップの準備や指導方法の確認などをおこないました。

広報担当になった受講者は、会場ビルの1階出入り口と千里山駅改札付近でチラシを配布しました。興味を持ってくれた人には、環境サポーター養成講座や公開講座についての話をしながら、配ってくれました。



◆(公開)ワークショップの実践 2

開始時間近くになると、広報担当の受講生が配布したチラシを受け取った人などが、会場に集まって来ました。

伝承草花遊びのコーナーでは、「ケモリ（葉で作る草の器）」と「草笛」を作りました。草笛は子どもから大人まで大人気でした。ケモリ作りでは昔の人々の生活に想いをはせる人もいました。

はがれないばんそうこうのはり方のコーナーでは、受講者たちが興味をもってもらうための説明を考え、実践していました。参加者と受講者とで、災害時、被災時にどうしたらよいか、どんなことができるかについても意見を交わしました。

環境小咄^{こぼなし}は、万博記念公園のネイチャーガイドとして活躍するアマチュア落語家の 2 人が担当しました。「美しく青き道頓堀川」は、カメの家族 3 世代のお話で、次世代にどんな地球環境を残せるのか、笑いながらも考えさせられる内容でした。

指ヨガ・ストレッチのコーナーでは、簡単なストレッチ法等を紹介しました。ボランティア活動中の事故を防止するための身体づくりを目的としています。運動習慣のない人にも無理なく参加できるプログラムでした。



水の生きもののぬり絵コーナーでは、ゲンゴロウ（絶滅危惧種）やアメリカザリガニ（緊急対策外来種）やカワセミ（水辺に生息する鳥）等のぬり絵を用意しました。ぬり絵をしながら、水辺の生態系や外来生物について話がはずみました。

◆生物多様性 その恵みを考えよう ～たこ焼きから考える生物多様性～（公開講座）

講師：大阪府立大学 副学長 石井 実 氏



小学生から年配の方まで、幅広い世代の参加がありました。

森林生態系の中で分解者とされる土壌動物や微生物の多様性についてのお話から始まりました。森林の土壌には海洋に次ぐ多様な生物群が生息します。森林生態系は沿岸海域や干潟の生態系と相互に関係しあっています。

生物多様性とは①種間の多様性、②種内の多様性、③生態

系の多様性を含むものをいいます。①種間の多様性とは、多様な生物種があるということ、②種内の多様性とは、同じ種でも、いろいろな個性があり、遺伝的に多様であるということ、③生態系の多様性とは、地球上にはいろいろなタイプの自然環境があるということをいいます。

私たちの食は生物多様性と無関係ではありません。たこ焼きを食べられるのは、約 40 億年の進化の結果生まれた地球の生物多様性や豊かな生態系の恵み、先人の品種改良の努力の結果そのものです。

また、生物多様性は「食」以外にも私たちの生活文化の基本を支えています。「衣」では絹（カイコ）、麻等、「住」ではスギ等の木材、「医」では医薬品成分となる植物等が挙げられます。

また、生物多様性の価値は、生態系サービス（生態系の公益的機能）として説明することができます。基盤サービス（物質循環、酸素供給等、生態系の基盤となる機能）、供給サービス（前述の衣食住医）、文化的サービス、調整サービス（気候の調整、洪水の抑制等）に分けられます。

しかし、現在、生物多様性は急速に劣化しています。世界で既に 859 種が絶滅し、25,028 種に絶滅の危機が迫っています（IUCN レッドリスト 2017）。大阪では、里山林の崩壊にともない、里地・里山に生息する生物が減少していることが問題となっています。日本の絶滅危惧種の半数以上が里地里山の生物とのことでした。

日本における生物多様性の 4 つの危機、①開発などの人間活動（開発や乱獲等）による危機、②自然に対する働きかけの縮小（里地里山問題等）による危機、③人間により持ち込まれたもの（外来生物や化学物質の影響等）による危機、④地球環境の変化（地球温暖化等）を紹介されました。

生物多様性を保全することが、私たちの世代のみならず将来の世代にとっても重要であることを、実感した講演でした。

◆ふりかえり

第 12 回目も、個人でのふりかえり、グループでのふりかえりをして、終了しました。